

令和5年3月15日

天龍中学校長 塩澤孝仁

保護者の皆様へ



令和4年度卒業生の皆さん及び保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

1・2年生及び保護者の皆様、1年間の課程修了おめでとうございます。

天龍中学校職員一同、生徒のご家庭や地域と連携し、「ひとりになれる ひとつになれる」の重点目標の下で「未来を拓く力」と「天龍力」を育むべく努めてまいりました。今年度1年間の保護者や地域の皆様に対しまして、本校の教育活動へのご理解ご支援に大変感謝申し上げます。

～卒業式での式辞・送辞・答辞より 一部抜粋～

式辞より

(前略)「唯一無二」これが皆さんの学級目標でしたね。

九カ年の義務教育を「唯一無二」の仲間たちと、天龍中でしかできない「唯一無二」の豊かな活動を通じ、「ひとりになれる」自立と「ひとつになれる」協働の学びを重ねてきました。卒業証書を受け取る皆さんの顔には、中学校の三年間も含め九年間の学びをやり遂げた充実感や達成感とともに、未来の作り手となっていくエネルギーを感じることができました。このエネルギーをもって登龍門を通り、社会の荒波にぶつかっていくこととなります。(中略)

未来が予測できない、正解のない世の中を生き抜いていくために大切な者はなんだと思いますか？ それは、自分で「問いを持つ」「問い続ける」「さまざまな問いをつくる」ことだと思います。例えば、「なぜロシアはウクライナ侵攻を続けるのだろうか」「歴史的背景があるのだろうか」また、「将来どうしよう」「今、自分は何をすべきか」という自分への問いもあります。正解は出なくても常に問い続けることで、得られる情報も増えて、世界の見え方が変わってくる。また新たな価値を見いだすことができるのです。この「問う力」を持つことが正解のない時代の今の私たちに必要なだとされています。ペーパーテストのように与えられた問いから正解を求めるだけでなく、自分で問いを持てる、問いを持ち続けることで、持続的共生的幸せである「ウェルビーイング」な世の中をつくる社会人となる事を期待しています。(後略)

送辞より抜粋

譲葉祭では「Only one～最高の笑顔をもう一度～」のテーマのもと、全校が協力し、準備や当日の活動、片付けをしたことで大きな達成感を味わえました。卒業生が率先して、今その時に必要なことやものを考えて行動する力やステージの上で堂々と発表する姿は、在校生の僕たちが頑張ろうという気持ちが沸いてきました。このように全校を盛り上げてくれる姿は私たちの目指す姿です。日常生活では、高校の試験に向けて精一杯勉強をしたり、村の人に自分から挨拶したりする姿がありました。また、在校生が困っている所に自ら教える姿から周りの人への気配りについても学びました。私たちは先輩たちから学んだことを大切にしながら頑張ります。ありがとうございました。

答辞より抜粋

特に、三年生として過ごしたこの一年間は、学校の顔として、全校生徒の前に立って引っ張っていく立場として、様々な難しさを感じながら過ごした一年でした。特に、生徒会最大の行事である譲葉祭では、たくさんの仕事に大変さを感じながらも、互いに支え合い、また先生方にも支えていただきながら、譲葉祭本番は、全校生徒が一つになって取り組み、大成功を修めました。このことは、私たちの自信になりました。

中学校での活動を全て終えた今、私たちは中学校生活で関わったたくさんの人たちと一緒に過ごした日々、充実感と感謝の思いでいっぱいです。

令和4年度末に転退職される先生方 ～お世話になりました。～

白鳥 京志 先生 . . . 佐久市立野沢中学校へ
田中 大地 先生 . . . 松川町立松川中学校へ
苦坂 勇太 先生 . . . 長野県箕輪進修高等学校へ
シエリジ - - ネジ ャット 先生 . . . 埼玉県朝霞市 民間英語講師

素直でのびのびと取り組む生徒、温かく協力的な保護者・地域の皆様とともに天龍中学校で3年間過ごしてきました。どんなところからも吸収し、伸びようとする生徒の姿に影響を受け、GIGA スクールや自由進度学習など新しいことにもチャレンジしてきました。また、学校運営に関しても経験を積ませていただき、今までとは違った視点から学校について考えられるようになりました。皆さんの姿から学んだことを大切にしながら、今後も学ぶ姿勢を忘れず、取り組んでいきます。お世話になりました。ありがとうございました。（白鳥京志）

登竜門の桜の木の下で、一年生のみなさんと一緒に写真を撮った日が昨日のことにように思い出されます。天龍中学校では、お茶摘み、プール開き、譲葉祭、村のお祭り、梅花駅伝、他にもたくさん行事があって、そのどれもが心に残るものでした。でも、それ以上に、生徒のみなさんと過ごした何気ない毎日が、私にとって、かけがえのない宝物となっています。みなさんのこれからのたくさんの幸せがやってくることを心から願っています。一年間、ありがとうございました。（田中大地）

一年間という短い間でしたが、大変お世話になりました。自然の豊かさ、人の温かさを感じられる天龍村で過ごす毎日は、私にとって非常に新鮮なものでした。楽しくフレンドリーに接してくれた生徒の皆さん、ありがとうございました。これからも自分を信じて頑張ってください。

保護者の皆様にも、大変お世話になりました。至らない点多々ありましたが、温かくご指導いただき、本当にありがとうございました。

皆様のご活躍を心から祈っております。（苦坂勇太）

I had an amazing 3 years here in Tenryu, and I will cherish the memories I got here for a very long time. I had a lot of doubt and anxiety coming into Japan, basically starting a new life, and I sincerely believe I couldn't have gotten a better place to start off than here, and especially Tenryu Junior High School. The lively and kind students, the experienced and empathetic teachers, the familiar and cozy building, the great nature... I will miss it all. I believe all of our students, both those starting off new lives as High Schoolers and those going up a grade to become 2nd and 3rd graders in Tenryu JHS will do their best as always, and I hope I will get to meet you all again and see how you've grown down the line. Again, thank you all very much for everything!（シエリジ - - ネジ ャット）

「春は出会いと別れの季節」

年度末の卒業式や離任式は、生徒も職員も仲間との寂しく辛い別れとなります。今まで一緒にいた仲間と交わした言葉や情景が素敵な思い出となって心に残っていくことでしょうか。この素敵な思い出がエネルギーとなって、次の出会いへのステップとなっていきます。

卒業生も転任する先生方も、この天龍中での素敵な思い出をエネルギーにして新たな地で活躍してくれることと思います。

『今 あなたと それぞれの道をいく まだ見えない 未来に向かい 一歩ずつ 一歩ずつ
今あなたに伝えたい「ありがとう」 ここでまた 会えるその日まで
希望へと 続く道 歩いていく この場所から 歩いていく 』

（卒業生合唱「春風の中で」より）